



「僕は、お父さんの仕事を継いでがんばります」「全日本剣道大会で優勝します」「フットボール選手になって、家族を楽にしてあげます」...

平成十七年三月、杉三小卒業式。式場に響きわたるその声は、卒業生の一人ひとりが目標とする力強い決意です。卒業生三十一名は、この日、自分の夢の実現に向けて新たなスタートを切りました。

明治二十七年の第一回卒業生は四名、それから、創立百一十周年を迎えた昨年、卒業生総数は一万六千九百九十九名を数えました。そして、杉三同窓の先輩方は現在、様々な場で活躍されています。

杉三小校舎



「心のふるさと」をわたりわたる杉三小。これは、杉三小で学び子供はもちろんだこと、保護者や地域の方、そして教職員が、心の底からそう思える学校にしたいという熱い気持ちを込めた合言葉です。この実現を目指して、私たち教職員は日々、子どもたちの指導に当たっています。

つくりに向かいます。では、杉三小の特色ある教育について、学校独自の内容だけでなく保護者や地域の皆様のご協力を得ながら進めている内容をいくつかご紹介いたします。



ヤゴ救出大作戦

◆遠足 今年度は、1・2・3年ブロック、4・5・6年ブロック、心障学級(しいのみ)の三つに分かれて春の自然を満喫してきます。早く仲良しになれるように学年を超えた活動を計画しています。

◆異学年による縦割り班活動 心障学級の児童を含め、1年から6年までの児童で36班を編成し、縦割り班遊びや縦割り班給食、縦割り班落ち葉掃きなどの活動を行います。

◆杉三合唱団 三年生以上の子どもたちで編成し、音楽専科の指導の下、早朝練習に励んでいます。日頃の成果は、本曜の音楽朝会や三月の杉並区主催「音楽教室発表会」等で披露します。



杉三まつり

◆杉三まつり 縦割り班のリーダーを中心に、グループ全員が協力して、オリエンテーリングを楽しみます。協力と責任を学ぶ大きな場でもあります。図書サポートによる読書活動 毎週金曜日の始業前は「全校読書」の時間です。保護者や地域の方のご協力を得て、本の読み聞かせが各学級で行われます。

◆ヤゴの救出大作戦 プール清掃前に、水を抜いたプールに入り、ヤゴを集めます。ヤゴは教室やそれぞれの家庭で飼い、その変化に気づかせると共に自然や生き物を大事にする心を育てていきます。

◆「あいさつだるま」を大きくしましよ う 教師の願いや代表委員会の子どもたちからの発案で、張り子の「あいさつだるま」を置き、気持ちの良い挨拶ができた時に、子どもたちが自主的に紙を貼っていき、「あいさつだるま」をだんだんと大きくさせていくのです。

◆サマーキャンプ 杉三「親獅子(おやじ)の会」が主体となり、毎年七月末の土曜・日曜に開催されます。多くの子どもたちや保護者・地域の方々も参加し、楽しいひとときを共にします。

◆運動会での「一輪車」乗り 秋の運動会では、例年四年生が「一輪車」を種目に取り入れています。初めて乗ると

◆「杉三まつり2005」 PTAを中心に、町会、児童館、親獅子の会、地域関係団体が参加する子どもまつりです。「人も地域も大好きな子どもに育てたい」「そんな願いが、この行事に込められています。」

◆卒業関連の行事 十二月に入ると、六年生をリタとした最後の縦割り班活動があります。そして、六年生の社会科見学やしいのみ学級のお別れ遠足が済むと、いよいよ「六年生を送る会」となり、修了式、卒業式と続きます。

◆活科学習との交流会 一・二年生は生活科の授業の一環として、保育園や幼稚園との交流を実施しています。年下の子どもへのやさしいやりやりを学ばせ、上級生になるという喜びにつなげていきます。

◆卒業関連の行事 十二月に入ると、六年生をリタとした最後の縦割り班活動があります。そして、六年生の社会科見学やしいのみ学級のお別れ遠足が済むと、いよいよ「六年生を送る会」となり、修了式、卒業式と続きます。

以上、主だった行事を中心に、杉三小の特色の一部をご紹介します。杉三小の教職員は、子どもたちを全員の目で見守っています。また、情報交換を盛んにしながら多面的に子どもを理解するよう努めています。そのため、外部からの講師の招聘、定期的な研修会など、専門的な研修を積んでいます。

また、学力向上策の一つとして、清掃後の15分間を「常時時間」として全校一斉に、「漢字練習や計算練習」に取り組んでいます。また、二年以上の学級では、算数において「少人数指導」を進めています。学級を、担任教諭と少人数指導担当教諭で二分割して受け持ったり、学年を三分割して指導したりするなどの指導形態の工夫・改善を図っています。

杉三小は本年度も、その教育活動の全てを通して、「自他の生命を尊重する心」を育ててまいります。

あんなところ、こんなところ 地域の身近な 歴史スポット ②

常仙寺の寅薬師

原田 弘

和前一丁目の旧妙法寺道を東へ坂を上った右側に「寅薬師」と石碑が建てられている。正確には曹洞宗石雲山常仙寺であるが珍しいことにお寺の向きは北面である。

明治四十一年麹町から移ってきたものでこの裏の長延寺と同じである。参考までに杉並区内のお寺の数を見ると八十三ヶ寺で、その内でも旧市内から移転して来たのが三十八であるが宗派別でも曹洞宗は二十三と最も多い。

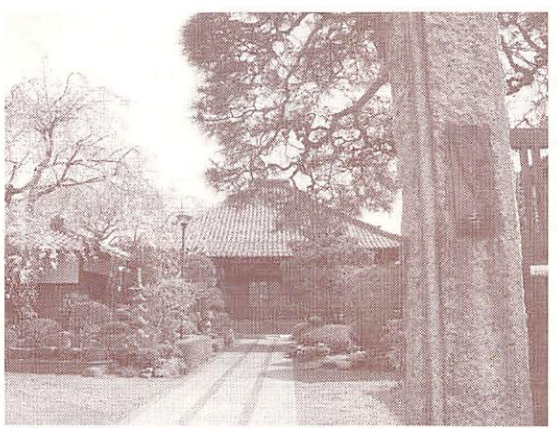
江戸時代から常仙寺というより寅薬師と言う名で人々に親しまれてきたようです。



この寅薬師の名の起りを明治三十年代に発行された「東京名所図会・麹町区三部」を参照すると元は「麹

町九丁目横町西側十五番地」と書かれています。

さて寅薬師のお話になりますがこの寺を開いた祥岩禪師がまだ出家前のこと三州鳳来山の麓で狼に襲われました。彼は驚いて近くにあったお堂に逃げ込みましたが狼はお堂の周りから去りません。困っていると一頭の虎が現れて狼を追い払い彼の危難を救ってくれました。薬師様の化身と信じ報恩のため出家し江戸に出て常仙寺を建立し三河国から薬師如来像を捧持し本尊にしたと同寺の由来・縁起にあります。



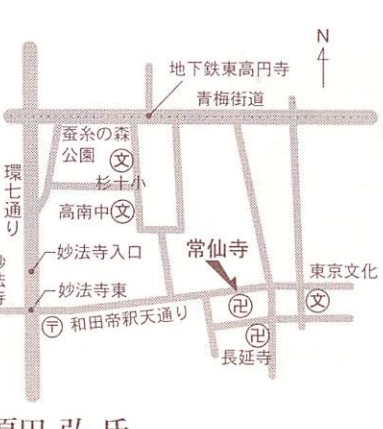
が、先の東京名所図会には、出家前の当時安田某といわれた時、大薬師様を信仰し毎日お詣りを欠かさなかつた。或る時狼が現れたが虎によって危難を脱し、その夜夢の中に老僧が現れ「信心深いお前の功德で

災難から救ってやったのだ」という意味の言葉が終わると目が覚めました。それから安田は出家し名を祥岩存吉と称し大いに信仰に励んだとのこと。

毎月八と十二日を縁日とし境内は人で溢れ益々有名になったそうです。



「虎は千里行つて、千里還る」という。災難除けの薬師如来です。お寺の正門を入り左側に小さいお堂の中に木造の虎が安置されています。一見して下さい。



原田 弘氏  
 杉並郷土史会会長・日本歴史学会会員・杉並区文化財保護指導員・日本ペンクラブ会員

定期総会を終えて

新緑が目に見える季節となりました。去る4月26日(火)の平成十七年度定期総会には、行政の方々を始め、地域諸団体の皆様多数のご臨席をいただき、無事終了することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

本年度は数の多さではなく、より中身の濃い講座を提供する、また、より広い年齢層の方々にも参加して頂けるように時間設定などを考慮したり、地域の特色を活かした企画情報ページを通じ広く発信することができるよう努めていきたいと考えています。

委員自身においてもIT時代に即した活動が進められるよう、レベルアップを目指し内部研修を実施してまいります。

4月23日(土)には和地区民集会所に於いて「わいわい・わだまつり2005」が開催されました。開設10周年の本年は行政及び多数団体の支援を得まして例年になく楽しいまつりを提供することが出来ました。そして来る6月4、5日は最大の事業である「セシオン杉並まつり2005」が控えており、皆様と共に楽しめる有益な企画を準備しております。

どうぞ地域の皆様の一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

